

船舶事故等調査報告書

平成22年5月27日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010那第10号	
事故等種類	衝突（岸壁）	
発生日時	平成22年1月23日 18時10分ごろ	
発生場所	鹿児島県 <small>おきのえらぶ</small> 永良部島 <small>わどまり</small> 和泊港 (概位 北緯27°23.9′ 東経128°39.9′)	
事故等調査の経過	平成22年2月19日、本事故の調査を担当する主管調査官（那覇事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数	貨物船 第三 <small>なんかい</small> 南海丸、1,505トン	
船舶番号、船舶所有者等	134533、共同フェリー運輸株式会社	
乗組員等に関する情報	船長、二級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	右舷（船尾）外板凹損	
事故等の経過	本船は、船長ほか8人が乗り組み、コンテナを積載し、和泊港の岸壁に右舷付けで着岸作業中、右舷船首方から強風を受け、船尾方から波浪を受ける状況下、船首が左舷側に圧流されるとともに、船尾が右舷側に振られ、平成22年1月23日18時10分ごろ、右舷船尾外板が岸壁に衝突した。	
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北西、風力 4 海象：波高 約1.5～2.0m	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし あり 本船は、和泊港の岸壁に着岸作業中、船長が、通常よりも岸壁に接近しすぎたことから、右舷船首部に受ける風圧がバウスラストの推力を上回り、船首が左舷側に圧流され、船尾が右舷側の岸壁に接近した可能性があると考えられる。
原因	本事故は、本船が和泊港において着岸作業中、岸壁に接近しすぎたため、強風に圧流されて、右舷船尾が岸壁に衝突したことにより発生した可能性があると考えられる。	